

# 窓辺

父への恩返し

宮地 良樹

私の両親は東京都出身ですが、1949年に当時の国立静岡病院に父が赴任したので、兄弟では私だけが静岡生まれです。私の戸籍の出生地は病院官舎があった「静岡市城東町官有無番地」で、住所不定みたいな気分です。

父は結核の専門医でしたが、当時はまだ化学療法がなく静養と人工気胸のみが治療でしたので、患者さんは広い庭や池などのある院内でゆったり療養されていました。そのため、子ども

もの頃は時間のたつぷりある患者さんたちがいつも一緒に遊んでくれました。ところが小学校へ入学して最初のツベルクリン反応で水疱ができるほど腫れあがり、1年間プール禁止になりました。「ツ反が強陽性だったよ」と恨めしく言つと、父は「免疫ができて良かったね」と強弁していました。

その後、父は市内で内科医院を開業しましたが、県庁の方に「お父さんに診てもらっていました」とか、近所の居酒屋で「私も患者でした」などと言われたりして、父が地域に根付いた市井の医師であったことを知りました。兄も私も医師になったのに、2人も医院を継承しなかったのが寂しかったのでしよう、数百人の患者さんに送った「閉院のお知らせ」に「息子たちが後を継がないので東京へ帰ります」と書かれてしまいました。しかし、いま私が静岡に戻り、父の生きざまを踏襲して地域のための医系大学院の仕事をしているのが、何よりの父への恩返しだと思っています。

静岡社会健康医学  
大学院 大学長